

教科(科目)	地理歴史(地理総合)	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	二宮書店『わたしたちの地理総合 世界から日本へ』、帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	二宮書店『わたしたちの地理総合 ワークブック』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら学び、自ら考え、主体的に物事に取り組む力を育成します。 ②様々な人とコミュニケーションを図り、自他を理解・尊重する心を育成します。 ③自己の進路希望を実現できる確かな学力と豊かな人間性を育み、社会に貢献できる力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な選択科目を設定し、得意分野の力を伸ばし、主体的に学ぶ意欲を高める授業を展開します。 ②積極的なICTの活用や探究的な学びをととして、思考力、自己表現力、発想力を育む授業を展開します。 ③学校行事、部活動、生徒会活動や外部と連携した学習活動をととして、自己や他者を理解したり、社会的な課題や問題を知る機会を充実させたりします。

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、次の通り育成することを目指す。 (1) 地理に関わる諸事象に関して理解し、地理や地理情報システムなどを用いて地理的な情報を適切に調べてまとめることが出来ることを目指す。 (2) 地理に関わる諸事象を関連づけて多角的に考察したり構想したり、それらをもとに議論したり出来ることを目指す。 (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を解決することを目指す。
--

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、 ①実社会に必要な、基本的な地理的な知識と技能の習得を目指します。 ②更にそれらを活用して考察したり構想したりする力の習得を目指します。 ③世界の諸地域の様々な価値観を尊重することの大切さについての自覚を深めることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識：地理に関わる諸事象に関し、世界の生活文化の多様性や防災、地域や地域的課題への取り組みなどを理解している。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目し、概念などを活用して多面的多角的に考察、構想し、地理的な課題を効果的に説明、議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

5 評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	- ペーパーテストの分析 - 作図やレポート、意見文、提出物などの内容の確認	- ペーパーテストの分析 - レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 - 振り返りシートの記述の分析	- 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 - レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 - 振り返りシートの記述の分析

6 学習計画

月	単元名	時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価方法
4	1章 地図とGISの活用	7	- 球面上の世界 - 国家の領域と領土問題	- 地球を球面として捉え、位置等について正しく理解する。 - 国家の3要素や国境の成り立ちなどが人々の生活に及ぼす影響を考察する。	ワークシート (記述の点検) ワークシート（記述の点検） 授業中の取り組み

5	1 章 地図と GIS の 活用	7	・国内や国家 間の結びつき ・日常生活 のさまざまな 地図	・外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国の関係を理 解する。 ・身の回りにある地図を題材にして、地図を用いた情報伝達の 方法を理解する。 ・GIS を用いて表現する技能を養う。	小テスト グループワークの 取り組み レポート（記述の点検）
6	2 章 生活文化の多 様性と国際理 解	9	・自然環境と 生活文化	・地球上の起伏がプレートテクトニクスと関連していることを 理解する。 ・世界の各気候帯の特色と人々の暮らし、工夫について雨温図 や写真などから考察する。	ワークシート （記述の点検） ワークシート （記述の点検）
7	2 章 生活文化の多 様性と国際理 解	7	・産業の発展 と生活文化	・世界の産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その背景を 理解する。 ・グローバル化による生活文化の変容を写真などの資料を通し て考察する。	定期テスト ノート、ワークの点検 ワークシート （記述の点検）
9	2 章 生活文化の多 様性と国際理 解	6	・言語・宗教 と生活文化	・世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を理解す る。 ・世界の民族対立等の諸課題を理解し、多文化共生社会の実現 について議論、考察する。	定期テスト 議論の様子を観察
10	2 章 生活文化の多 様性と国際理 解	6	・グローバル 化の進展と 生活文化	・グローバル化社会で世界をリードする産業の発展と企業の国 際化の過程を捉える。	ワークシート （記述の点検）
11	3 章 地球的課題と 国際協力	8	・人口・食料 問題	・世界人口の急増による諸問題を理解し、資料から解決のため の取り組みを考察する。 ・持続可能な発展のための食糧問題との関連で人口問題を捉 え、理解する。	授業中の取り組み （ワークシート （記述の点検）
12	3 章 地球的課題と 国際協力	5	・居住・都市 問題	・都市に人口が集中する原因を読み取り、都市問題について理 解する。	定期テスト ノート、ワークの点検
1	3 章 地球的課題と 国際協力	5	・資源・エネ ルギー問題	・エネルギー資源の変化を世界的視野から考察する。 ・再生可能エネルギーのメリットやデメリットを理解し、国際 協力の必要性を考察する。	ワークシート （記述の点検）
2	4 章 生活圏の諸課 題	4	・自然環境と 防災	・日本列島の地形や気候を理解して、起こりえる災害について 考察する。 ・ハザードマップを活用し、生活圏の防災について考察し、表 現する技能を身に付ける。	定期テスト ワークシート （記述の点検）
3	4 章 生活圏の諸課 題	6	・持続可能な 地域づくり	・生活圏の課題を解決するための手段として、主題図を活用 し、将来に向けてのあり方を考察する。	ワークシート （記述の点検）

計 70 時間（50 分授業）

7 課題・提出物等

・前後期の決まった時期にノートとワークブックを提出します。 ・作業を行って提出する課題が、年間約 6 回あります。

8 担当者からの一言

・「地理総合」は今後ますますグローバル化する世界で生きていくために役立つ知識や技能、考え方を身に付ける科目です。
世界にはさまざまな文化があり、価値観があることを 1 年間の授業で理解してもらいたいと思います。

令和7年度 シラバス（ 地理歴史 ）

学番10 新潟県立新潟向陽高等学校

教科(科目)	地理歴史（歴史総合）	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	『わたしたちの歴史 日本から世界へ』 山川出版社				
副教材等	（なし）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら学び、自ら考え、主体的に物事に取り組む力を育成します。 ②様々な人とコミュニケーションを図り、自他を理解・尊重する心を育成します。 ③自己の進路希望を実現できる確かな学力と豊かな人間性を育み、社会に貢献できる力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な選択科目を設定し、得意分野の力を伸ばし、主体的に学ぶ意欲を高める授業を展開します。 ②積極的なICTの活用や探究的な学びをととして、思考力、自己表現力、発想力を育む授業を展開します。 ③学校行事、部活動、生徒会活動や外部と連携した学習活動をととして、自己や他者を理解したり、社会的な課題や問題を知る機会を充実させたりします。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 近現代の歴史の枠組みと展開に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えながら理解するとともに、諸資料から近現代の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 近現代の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。 (3) 近現代の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
--

3 指導の重点

この授業は、「現代とのつながり」に重点をおく。教科書の名称に「わたしたち」とあるように、歴史総合の学習は「わたしたち」が社会を形成する主体として成長するための学習である。ただ過去の諸事象について学習するだけでなく、現在を生きる「わたしたち」に関わる課題であるという問題意識をもち、その解決を視野に入れて考察できるように学習する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の枠組みと展開に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成について理解している。また、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて考察することができ、それを説明したり、議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的、多角的な考察や深い理解を通して、自分で課題を設定し主体的に探究しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点をふまえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポート、提出物などの内容 などから、評価します。	以上の観点をふまえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組 ・レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点をふまえ、 ・授業中の発言や討論への取り組み ・レポート、提出物などの内容 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。		

6 学習計画

月	単元	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	<u>第1部 近代化と私たち</u> ・18世紀の世界とアジア ・日本の開国	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と歴史とのつながりを考察、表現する。	4	・授業の活動への参加、取組状況(1年間の授業を通じて)
5	・明治維新 ・明治初期の外交	・アジア諸国と欧米諸国の関係とその変容などについて考察、表現する。	6	・ワークシート
6	・日本の産業革命と日清戦争 ・日露戦争と韓国併合	・列強と日本の関係やアジアからの視点をふまえて考察する。 ○6月下旬 前期中間考査	7	・ノート点検 ・定期考査
7	<u>第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち</u> ・第一次世界大戦 ・ロシア革命とその影響	・第一次世界大戦の性格と惨禍、国際協調体制の特徴、戦後の大衆社会の形成と社会運動との関連などを考察、表現する。	5	・ワークシート
8	・国際協調	・第一次大戦後の国際秩序の変化について考察する。	2	・レポート (夏季休業中の課題)
9	・アジアの民族運動 ・大量生産大量消費社会	・第一次大戦後の民族自決と世界恐慌前の状況を考察する。 ○9月下旬 前期期末考査	8	・ノート点検 ・定期考査
10	・世界恐慌 ・独裁勢力の台頭	・世界恐慌、国際協調体制の動揺、から第二次世界大戦に至る経過を考察する。	8	・ワークシート
11	・第二次世界大戦 ・第二次世界大戦の終結 ・冷戦のはじまり	・第二次世界大戦の性格と惨禍、戦時下の社会、日本の占領政策と国際情勢との関係などを考察する。 ○11月下旬 後期中間考査	8	・ノート点検 ・定期考査
12	<u>第3部 グローバル化と私たち</u> ・第三世界の登場 ・冷戦の展開	・冷戦と地域紛争の関係、欧米とソ連の政策転換の要因、第三世界の動向について考察する。	5	・ワークシート
1	・ベトナム戦争とアメリカ ・社会主義の停滞と新自由主義	・アメリカの動揺や社会主義の停滞から冷戦終結への動きを考察する。	5	・レポート (冬季休業中の課題)
2	・冷戦の終結 ・地域統合	・冷戦終結の過程と、聖戦終結後の諸課題について考察する。 ○2月中旬 年度末考査	8	・ノート点検 ・定期考査
3	・現代的な諸課題の形成と展望	・資料を活用して課題を探究する。	4	・ワークシート

計 70 時間 (50 分授業)

7 観点別評価を総括して評価する際の比率

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
45%	35%	20%

8 課題・提出物等

- ・単元ごとに授業のふりかえり(ワークシート)を課します。
- ・定期考査ごとにノートを点検します。
- ・夏季休業、冬季休業にはレポートを課します。

9 担当者から一言

歴史総合は、世界の歴史と、世界の中にある日本の歴史を関連付けながら学習する科目です。歴史総合で学ぶ近現代は、世界のあらゆる地域の結びつきが、それ以前の時代と比べて非常に強くなった時代です。歴史を学ぶことを通じて、現代に生きる「わたしたち」の課題について主体的に考えることができるように、ともに学びましょう。